

児童全員に攻守の役割を十分に経験させ、技能を発揮する機会を増やすために、単元の前半では、チームの基本人数を3人としました。また、単元後半では、本来のゲームの感覚に近づけるために5人としました。

単元の中ほどの「オリエンテーションⅡ」は、各自の技能の変容を把握し、それらを基に新チームを編成するために設定しました。

時分	1	2・3・4・5	6	7・8・9・10	11
15	オリエンテーションⅠ	ボールを使った楽しい運動 準備運動	オリエンテーションⅡ	準備運動 スキルアップゲーム	バスケットボール大会
30		スキルアップゲーム		タスクゲーム (トライアングルコート)	
45		タスクゲーム (トライアングルコート)		ゲーム (5vs5) 相互評価	

〈資料2 単元の構想図〉

4 実践例

(1) ボールを使った楽しい運動

運動能力やボール操作の技能の差にかかわらず、誰もが楽しめる運動を導入部に位置付けました。

① 体側回し

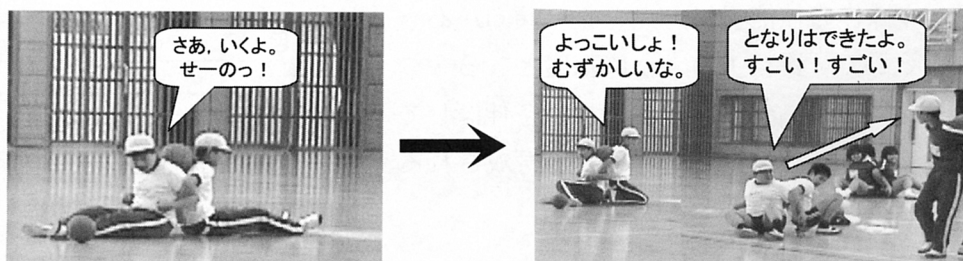
ボールを落とさないように、体の周り（腹→背中→腹…）をグルグルと回します。ボールタッチの向上もねらえます。

② 背面キャッチ

ボールを上へ投げ、背面でキャッチします。ボールを思った方向に投げることやボールと自分の位置関係の把握にもつながります。

③ ペアでのボールはさみ

写真のように、背中合わせに座り、腕を組みます。2人の背中でボールをはさみ、落とさないように立ち上がります。コツや工夫が必要ですが、失敗しても楽しく、またやりたいと思わせる運動です。また、息を合わせたり、相談したりすることは、作戦を立てる基礎を培うことにつながります。



〈「ペアでのボールはさみ」の様子〉

④ 列になったのボール渡し

ボールを列の先頭から最後尾まで（または1往復）順番に渡していき、グループ対抗でその速さを競います。この運動では、集団としての一体感が味わえます。ボールの渡し方には、頭上や足の間を通す、体を右（左）にひねるなどがあります。